

日本の家

The Japanese House : Architecture and Life after 1945

1945年以降の建築と暮らし

本展は日本の建築家56組による75件の住宅建築を、400点を超える模型、図面、写真、映像などを通して紹介する壮大な試みです。時系列ではなくテーマごとの展示になっているので、「日本の家」の特徴を深く理解いただけます。2016年秋からローマ、ロンドンを巡回し、いよいよ東京で開幕します。

ついに東京で開幕！
ローマ、ロンドンを巡回した展覧会、



①

②



① 藤本壮介 House NA (2011) © Iwan Baan

② 石山修武 開拓者の家 (1986) © 石山修武

会期 2017年7月19日 [水] - 10月29日 [日]

会場 東京国立近代美術館 企画展ギャラリー [1階]

本展のポイント

■ 日本の建築家56組による75件の日本の住宅建築を、400点を超す模型や手書きの図面、写真、映像などで紹介。時系列ではなく13のテーマに分類して展示することで、誰にとっても身近である家を時代性や社会性、立地環境や人と人とのつながりなど様々な視点から検証します。

■ 日本の住宅建築を成立させる条件が大きく変わった戦後に焦点をあて、建築家が手がけた住宅をこれまでにない規模で展示。現在に至るまでの、建築家による日本の家の数々をご覧ください。

■ 取り上げる主な建築家は、青木淳、アトリエ・ワン、安藤忠雄、石山修武、伊東豊雄、乾久美子、菊竹清訓、隈研吾、坂本一成、篠原一男、白井晟一、清家清、妹島和世、丹下健三、西沢立衛、長谷川逸子、長谷川豪、藤井博巳、藤本壮介、藤森照信、山本理顕、吉阪隆正、吉村順三、アントニン・レーモンドなど。日本の建築史に名を刻む建築家たちの作品を一挙展示。

■ 展示室内には、中に入って体感できる実物大模型も。日本住宅建築の名作の一つで、ヴァルター・グロピウスに高く評価されたという逸話も残る《斎藤助教授の家》(清家清、1952年、現存せず)を、オリジナルの家具付きで制作します。

■ 本展は、2016年にローマのMAXXI国立21世紀美術館で、2017年3月にロンドンのパーピカン・センターで開催され好評を博しました。2017年は本展をはじめ、建築展が日本国内でも多数開催。建築への注目が高まる1年です。

展覧会の詳細

■ なぜ戦後の日本の家なのか？

日本の住宅建築におけるターニングポイントは、戦争の終わった1945年。それまで都市部の人のほとんどは借家に住んでいましたが、一面が焦土と化し、住宅が圧倒的に不足する中、自ら土地を買って持ち家を建てるのが、政策により推進されたのです。1950年には建築士法が施行され、多くの個人住宅が「建築家」によって設計されるようになりました。

欧米の多くの国では、建築家の仕事の中心は公共建築なのですが、日本の場合は、一人の建築家が、公共建築も個人住宅も手がけることが相当数あります。建築界で最も名誉ある賞といわれるプリツカー賞の日本人受賞者が、多数の住宅建築を手がけているというのは、実は結構驚くべきポイントなのです。



◎ 2016年11月に開催されたローマのMAXXI 国立21世紀美術館での展示風景
○ シモーナ・フェラーリ、写真提供：アトリエ・ワン

■ 錚々たる建築家の作品が登場

本展の特徴の一つは、語り継がれてきた名作から現代社会を反映する話題作まで幅広く取り上げること。例えば、1950年代のアントニン・レーモンドや丹下健三の自邸、無印良品の住宅商品シリーズのひとつ「木の家」の礎となった《箱の家》(難波和彦、1995-)をはじめ、《中野本町の家》(伊東豊雄、1976)、《ニラハウス》(藤森照信、1997)、《森山邸》(西沢立衛、2005)など様々なタイプの住宅建築が登場します。出品建築家一覧は次ページをご参照ください。

■ なぜ13のテーマによる展示なのか？

日本の現代の住宅建築には、一見突飛に見えるものも少なくありません。けれどそれは、戦後から今日までの様々な試みによりクライアントと建築家の双方が鍛えられた結果、最先端の「建築と暮らし」が求められているからだとも言えるのです。この展覧会では75件の住宅建築を、「プロトタイプと大量供給」、「大地のコンクリート」、「家族のあり方」など13のテーマに分けて展示することで、日本の住宅建築の特徴を浮かび上がらせます。

■ 実物大の模型やワークショップなど、体験できる要素があちこちに！

本展には、400点を超える模型、図面、写真、映像が展示されますが、それだけではありません。日本の住宅建築のコアな面白さを体感いただける、中に入れる実物大模型も制作します。また、若手建築家との協働による夏休みに合わせたワークショップなども計画中です。

■ ローマ、ロンドン、東京の世界3都市を巡る展覧会！

本展は、2016年11月からローマのMAXXI 国立21世紀美術館で、2017年3月からロンドンのパービカン・センターで先行開催され、今回満を持して東京での開催となります。企画段階から当館学芸員の保坂健二郎がキュレーションに携わっている巡回展ですが、東京展ならではの特徴として、日本の伝統と西洋的モダニズムをミックスさせた《斎藤助教授の家》(清家清、1952)が実物大の模型に選ばれたり、住宅のクライアントのインタビュー映像が追加されたりしていることがあげられます。また会場デザインは、ローマ展と同じくアトリエ・ワンが担当します。

出品建築家一覧

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 相田武文 | 白井晟一 |
| 青木淳 | 清家清 |
| 東孝光 | 妹島和世 |
| アトリエ・ワン
(塚本由晴 + 貝島桃代) | 丹下健三 |
| 阿部勤 | 手塚建築研究所
(手塚貴晴 + 手塚由比) |
| 安藤忠雄 | dot architects
(家成俊勝 + 赤代武志) |
| 五十嵐淳 | 中川エリカ |
| 生物建築舎
(藤野高志) | 中山英之 |
| 生田勉 | 難波和彦 |
| 池辺陽 | 西沢大良 |
| 石山修武 | 西沢立衛 |
| 伊東豊雄 | 西田司 |
| 乾久美子 | 長谷川逸子 |
| o+h
(大西麻真 + 百田有希) | 長谷川豪 |
| 大野勝彦 + 積水化学工業 | 広瀬鎌二 |
| 岡啓輔 | 藤井博巳 |
| 柄沢祐輔 | 藤本壮介 |
| 菊竹清訓 | 藤森照信 |
| 岸和郎 | 前川國男 |
| 隈研吾 | 増沢洵 |
| 黒川紀章 | 宮本佳明 |
| 黒沢隆 | 無印良品 |
| 金野千恵 | 毛綱毅曠 |
| 坂倉準三 | 山下和正 |
| 坂本一成 | 山本理顕 |
| 篠原一男 | 吉阪隆正 |
| 篠原聡子 | 吉村順三 |
| 島田陽 | アントニン・レーモンド |



④ 西沢立衛 森山邸 (2005) ●ホンマタカシ



⑤ 伊東豊雄 中野本町の家 / White U (1976)
写真：多木浩二



⑧ 池辺陽 住宅 No.76 (1965) ●大橋富夫



⑥ 丹下健三 住居 (1953) 写真提供：内田道子



⑦ 藤森照信 ニラハウス (1997) ●増田彰久

開催概要

タイトル (日) (英)	日本の家 1945年以降の建築と暮らし The Japanese House: Architecture and Life after 1945
読み方	にほんのいえ 1945ねんいこうのけんちくとくらし
会期	2017年7月19日 [水] - 10月29日 [日]
会場	東京国立近代美術館 1階 企画展ギャラリー 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
主催	東京国立近代美術館、国際交流基金
企画協力	MAXXI 国立21世紀美術館、パーピカン・センター
協賛	積水化学工業株式会社
協力	トヨタホーム東京株式会社、ミサワホーム株式会社、新建築社、日本航空、川上産業株式会社
開館時間	10:00 - 17:00 (金・土曜は21:00まで) 入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日 (9/18、10/9は開館)、9/19 [火]、10/10 [火]
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口より徒歩3分
観覧料	一般 1,200 (900) 円、大学生 800 (500) 円 * () 内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 * 高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。 * 本展の観覧料で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「MOMAT コレクション」(4-2F)、 「彫刻を作る／語る／見る／聞く—コレクションを中心とした小企画」(2F ギャラリー4) もご覧いただけます。 * 使用済み入場券で、入館当日に限り再入場が可能です。
5時から割引	金・土曜の17時以降は、割引料金でご覧いただけます。 (一般 1,000 円、大学生 700 円)
リピーター割引	本展使用済み入場券をお持ちいただくと、2回目以降は特別料金でご覧いただけます。 (一般 500 円、大学生 250 円)
お問い合わせ	03-5777-8600 (ハローダイヤル)
ホームページ	http://www.momat.go.jp
同時開催	2017年5月27日 [土] - 11月5日 [日] 所蔵作品展「MOMAT コレクション」(4-2F) 2017年5月27日 [土] - 11月5日 [日] 「彫刻を作る／語る／見る／聞く—コレクションを中心とした小企画」(2F ギャラリー4) * 観覧料：一般 500 (400) 円、大学生 250 (200) 円 * 高校生以下および18歳未満、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。 * () 内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。

【報道関係お問い合わせ先】

広報担当：紀太(きだ)みどり、三輪菘子、藤田汐路 内容：保坂健二郎
tel : 03-3214-2564 fax : 03-3214-2576 e-mail : pr@momat.go.jp